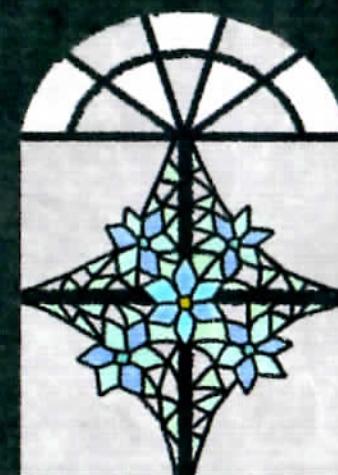


京都大学音楽研究会
ハイマート合唱団
第50回記念定期演奏会



ハイマート

2011年12月18日(日) 開演16:00
兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール

後援 京都府合唱連盟 関西合唱連盟



京都大学音楽研究会
ハイマート合唱団
第50回記念定期演奏会

団歌

母なるふるさとよ
苔水のーたーりに
静まるふら
母なるふるさとよ
美ーい青空に
木々はさわわと
父よ母よ
ふるさとの地よ

ご挨拶

はじめてハイマート合唱団の名前を意識したのは、京都市立芸術大学に在学していた頃でした。音楽を専門に学ぶ人たちではないのに、きわめて専門性の高い音楽を目指して真摯に取り組んでおられたのが印象的でした。その後ジョイントコンサートで指揮させていただいたことはありましたが、今回、この記念演奏会でバッハの名曲で共演させていただくことになり嬉しく感じています。30年前に私が最初に抱いた印象と寸分たがわず、高い目標を設定されて、それに明るく知的に向かっておられる皆さんは、今日の演奏会でも魅力的な音楽を発信されると確信しています。演奏会のご成功をお祈りしています。

客演指揮者 本山秀毅

本日は京都大学音楽研究会ハイマート合唱団第50回記念定期演奏会にお越しくださいまして、誠にありがとうございます。

「集う楽しさ、歌う喜び、ハモる幸せ。」当団名誉指揮者である伊吹新一先生がよくおっしゃっていた言葉です。現役生の練習での歌声を聴き、またOBOG合同ステージの練習で卒団生が集まって歌う姿を見て、伊吹先生のこの御言葉がハイマート合唱団に深く根付いていることを感じました。こうした感性を変わずにずっと持ち続け、50回という節目を迎えられたのは、50年間にわたって団を導いてくださった伊吹先生、ヴォイストレーニング・各種演奏会でご指導いただいた諸先生方、たゆまぬ努力を続けてこられた全てのOBOGの皆様、真剣に音楽に向き合ってきた現役生、そしてこれまでご支援くださった関係者各位の全ての方々の方々の力によるものです。今回、御病気のため伊吹先生ご本人が指揮台に立たれることは叶いませんでしたが、伊吹新一先生の弟子の一人として、またハイマート合唱団卒団生の一人として、合唱団が育んできた音楽の力・人の力、そしてそのお陰で歌うことが大好きになった姿を、ご来場いただいた皆様に感じていただければ幸いです。

本日の演奏会では、著名なオルガン奏者でもあったRheinbergerが作曲した豊かな響きをもつモテット、九州・長崎に隠れ住んだ隠れキリシタンの敬虔な祈りを西洋・東洋音階に乗せて描く千原英喜作曲のバラード、関西で最高の合唱指揮者の一人である本山秀毅先生をお迎えして演奏するBachの壮大なモテット、そして180名を超える卒団生が集まり半年以上をかけて現役生と共に繰り返し練習を積んできたMozartのミサ曲の4曲を演奏します。今日の日のために、いずれの曲も学生たちが選曲から悩み抜き、多くの時間を練習に費やしてきました。それぞれのステージで描く彩りの違った音楽を、どうぞ心ゆくまでお楽しみください。

そして、今後ともハイマート合唱団を様々な面からご支援いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

指揮者 上田祥行

本日は京都大学音楽研究会ハイマート合唱団第50回記念定期演奏会にお越しいただき、誠に有難うございます。当団は京都大学音楽研究会の合唱部門として、京都大学の学生を中心とする約100人の団員を擁し、和気あいあいと、しかし真剣に音楽と向き合いながら日々活発に活動しております。

1961年、合唱が好きな大学生が、十数人という小さな集まりから始めたハイマートも、「高い音楽性の探求」を活動の軸に弛まぬ歩みを続け、今年で記念すべき定期演奏会開催50回目を迎えました。数え切れないほど沢山の先輩方が時に笑い時に涙し、そして数々の曲と真摯に向き合ってきた50年間の、その歴史の最先端に私たちが今立っていると思いますと、緊張とともに誇らしさを感じます。そしてその歩みの裏には団の活動を支えてきてくださった沢山の方々のご好意があることを思い、感謝の念でいっぱいです。とりわけ、この度の共演は叶いませんでしたが、実に50年間の永きに渡り当団を見守ってくださった名誉指揮者の伊吹新一先生には、この場をお借りして団員一同限りない感謝と敬意を捧げたいと思います。多くの方々の思いを背負い、これまでの50年間の活動の集大成として、また、これから始まる新たな50年間への架け橋として、今宵、最高の音楽を奏でます。

最後になりましたが、本日の演奏会に当たってご指導、ご協力下さいました先生方、先輩方ならびに関係者の方々、そして本日お越し下さいました皆様に厚く御礼申し上げますとともに、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第50回記念定期演奏会委員長 吉田守伸
2011年度マネージャー 永本 翠



Message



この度は、ハイマート合唱団第50回記念定期演奏会開催、誠におめでとうございます。

私がヴォイストレーナーとしてお伺いするようになって25年ほど経っているように記憶しておりますので、何と四半世紀にわたるお付き合いという事になるのですね！時の経つ早さには驚くばかりでございます。練習に伺い始めた頃は、私のような勉強苦手人間が京大の門をくぐる事に恐れ多い気がしたものです。練習後に夜の闇に浮かぶ時計台の美しさに心打たれながら帰宅するのは今も変わりません。

ミサ曲を最終ステージに演奏するのが長い間の伝統という事で、沢山のミサ曲のソプラノソロも経験させていただきました。むしろ私の方がいろいろ学ばせていただいていると感謝しております。

四半世紀の間、時代と共に団員数の増減や学生さんの気質に変化があったことと思います。その中で変わらぬもの、それは皆様の合唱に対する探究心の深さではないでしょうか。学部を卒業し大学院へと進まれても団で歌う姿や、先輩が後輩にアドバイスしている姿を見ていて、素晴らしい伝統だと感心しております。時代の流れの中でこれからも良い伝統が受け継がれ、皆様の故郷（ハイマート）が更なる発展をされますよう、お祈り申し上げます。

ソプラノヴォイストレーナー 浅井順子^{のりこ}

ハイマート合唱団50周年おめでとうございます。

幸福なことに、私はその半分以上の歳月をご一緒させて頂いてきました。最初は、あまりの頭脳明晰集団ゆえに、恐怖心さえ持っていましたが、実際に接すると意外に素朴で可愛らしく、私ども凡人と同様に、切ない悩みを抱えた若者たちであった事に安堵したものです。

しかしながら、合唱に対する情熱、追求心は驚くべきもので、メンバーの変遷にも関わらず、高い技術や知識を維持し続けています。この事は、良い意味での食欲さを持つ頼もしい合唱団である証だと感じています。

昨今の国内外の情勢はまさに混沌としており、若者が未来に夢や希望を持ちにくい時代ですが、その飽くなき探究心と、ハイマートを通して培った連帯の力で、世界の将来を切り開いていって欲しいと思います。

今宵、数多のOBOGの皆さんが、「Heimat」、即ちふるさとへと里帰りし、現役生と共に50年の歳月を越えた素晴らしいハーモニーを聴かせてくれます。

その響きが未来へと向かう一条の光となりますように……

アルトヴォイストレーナー 桐山明子

我がハイマートが京大に誕生し今年で半世紀に！私は卒団生の石原 哲 氏(バリトン)からご紹介いただき、30年近くをともに歩んで参りました。嬉しい思いでいっぱいです。創立当初の先輩方の熱い思いが今も脈々と受け継がれ、毎年の定演プログラムは渋く味わいのあるオーソドックスな作品で満載です。全国的に大学の合唱団の団員激減が目立ち始めた1990年以降も、「我々はこの路線で歌って行く！」という信念ともいえるハイマート精神が練習の折に窺えました。また、「この曲を定演でやるの？」と驚くこともしばしばで、山の険しさを知らずに登山するような難曲ぞろいのプログラミングが楽しみでもあり、正直、不安でもありました。しかしながら、団員諸君は1時間にわたるミサを暗譜で見事に歌いあげるなど、裏切らない歌を聴かせてくれるのがハイマートです。

全員でお互いの声を聞き合い、それを自分のものにしていく食欲さ。録音した自らの声や先輩の声を聴き、自分のものとしていく知性と独創性を持ち合わせたメンバーは、自らの発声を真剣に客観的に感得体得してくれていくのでした。頼もしいことにオペラに目覚め、今や、舞台上で活躍するOB諸君もいます。これからも時代は流れ新しい合唱作品が生まれていくでしょうが、ハイマートらしい一層味わい深い歌が歌われ続けていくことを期待して、お祝いの言葉といたします。

テノールヴォイストレーナー 小林正夫

ハイマート合唱団50周年おめでとうございます。この記念すべき年にトレーナーとして、またソリストとしてご一緒できる事に、大きな喜びと感謝の思いでいっぱいです。レッスンのたびに感じることは、団員諸君の音楽に対する真摯な態度と食欲なまでの技術の探求、又それを実践する集中力です。就任当初は只々驚きの連続でしたが、日々成長する諸君の姿をととても頼もしく感じる事が出来ました。

先日、震災の被害を受けた東北の中学生達とご一緒させていただく機会を得ました。被災地の子供たちの言葉は音楽を得て言葉となり、その歌声は多くの人の心に響きました。そこには複雑な和音構成や高度な発声技術に頼ることのない、心に響く言葉と音楽だけがあり、その歌声は多くの人々に感動と共感を与えました。ハイマート合唱団も、これからの一層多くの人々から愛され、心に響く歌声を届ける事ができる合唱団であり続ける事を切に願っております。

ベースヴォイストレーナー 雁木 悟

ハイマート合唱団の現役のみなさん、第50回目の定期演奏会開催おめでとうございます。

思い起こせば小生が在籍した時の定演は第3回から第8回までである。当時のハイマートは現在のように技術力が前面にある訳でもなく、合唱を楽しむグループというような状態であったと思う。それが半世紀余りの歴史を経て、今や押しも押されもせぬ立派な合唱団に。ここ数年の演奏会を拝聴するに、その実力は敬服に値すると言わねばならない。そして、ここまで研鑽を積んだ団員にエールを送ると共に、育て上げて頂いた伊吹新一先生には絶大な感謝の意を表する次第である。また、今定演では50回を記念して現役とOBOG合同のステージを企画して、我々デルハイの有志にも出場の機会を設定して頂いたこと、感激の至りでもある。惜しむらくは、伊吹先生の体調不良により先生と一緒にステージに立つことが出来なくなってしまったことだ。小生も伊吹先生を招聘した最初の定演を、京都会館にて開催した当時のハイマート執行部の一員として、胸を膨らませていただけに残念である。

なお、デルハイとはハイマート創成期から昭和43年入団までのOBOGで構成される団体であり、現在も4年に一度の京都市内合宿にて親睦を図っている。名称は「出るハイマート」に因る。

6期OB・デルハイ代表 伊澤 朗

50回目の定期演奏会、おめでとうございます。

私は団員として13回～17回のステージにりましたが、その後30年以上ハイマートとの関わりはありませんでした。ところが2年前のサマーコンサートで客演指揮者として呼ばれたところ、100名近い団員が以前にも増して充実した活動が続けている姿を見て、本当に嬉しく思いました。その時の皆さんの熱い演奏を、私は今も忘れています。私のレッスンや経験談に対する皆さんの感性はとても豊かで、何人もの涙に触れることができました。

合唱の素晴らしさは、詩を深く読みこむことで他己への思いやりと想像力が膨らみ、みんなの力を合わせて音楽を作りあげることで協調性が養われるところです。社会の中核で活躍する人材を多く輩出する大学であるからこそ、学生時代の合唱経験はとても貴重なものに思えます。学校教育で音楽が軽視される現在では尚のことです。

私は、高校の国語教師から合唱指揮者という異端の道を歩いてしまいましたが、わがクラブの同窓生が、ハイマートでの経験を心の糧としつつ様々な分野で活躍されんことを、そして、まだ見ぬ後輩たちのためにもハイマート合唱団の益々の発展を願ってやみません。

16期OB・指揮者 高嶋昌二



第50回記念定期演奏会によせて

Stage

1

Drei geistliche Gesänge op.69 より

Morgenlied

Hymne

Abendlied

作曲 Josef Gabriel Rheinberger

指揮 寺園杏子

Stage

2

混声合唱のためのおらしよ カクレキリシタン3つの歌

I 〈第1楽章〉

II 〈第2楽章〉

III 〈第3楽章〉

作曲 千原英喜

指揮 大前泰樹

INTERMISSION (10min.)



Program

Stage

3

Jesu, meine Freude BWV 227

作曲 J. S. Bach

指揮 本山秀毅

オルガン 中山幾美子

オーケストラ 第50回記念定期演奏会特別編成オーケストラ

INTERMISSION (15min.)

Stage

4

Krönungsmesse in C-Dur, KV 317 戴冠式ミサ

作曲 W. A. Mozart

指揮 上田祥行

Soprano 浅井順子

Alto 桐山明子

Tenor 藤田大輔

Bass 雁木 悟

オルガン 中山幾美子

オーケストラ 第50回記念定期演奏会特別編成オーケストラ



混声合唱のためのおらしよ カクレキリシタン3つの歌

作曲 千原英喜

1549年、ザビエルが来日し、キリスト教の布教が始まりました。それを発端として始まった、日本のキリシタンにとっての平和な時代も、豊臣や徳川の治める時代になると終わりを迎え、彼らにとっての冬の時代が訪れます。厳しい弾圧の下、宣教師たちにより伝えられたキリスト教は、日本土着の仏教や神道と融合し独自の宗教となりました。観音様に似たマリア、ちょんまげを結ったキリストが描かれた掛け軸などから驚くべき潜伏の知恵を知ることができます。

明治に入り弾圧はなくなりますが、一部の日本の信者は本家のキリスト教には戻らず、その独自の信仰を守り続けました。彼らは先祖をととても大切にし、先祖から受け継いだ教えを守るため、またキリスト教の本流に帰ることで、仏壇を捨て先祖を崇拝できなくなることが耐えられなかったために、そのような決断をしたのです。

このように現在まで400年間、先祖から受け継いできた祈りの教えを守り続けてきた人々が、「カクレキリシタン」と呼ばれる人々です。その「カクレキリシタン」が祈りの儀式で使う言葉が「おらしよ」であり、この曲のタイトルにもなっています。「おらしよ」はラテン語やポルトガル語の祈りの言葉が訛り、長崎方言などが混ざって呪文化したものです。

「カクレキリシタン」の住む長崎は、京都盆地の朗らかな雰囲気とも、瀬戸内海の穏やかな雰囲気とも違い、平地がほとんどなく崖ばかりで、また流れも速く荒々しい海に面しています。そんな身の引き締まるような厳しい自然の中で、彼らは人目を忍んで暮らしてきました。そんな環境的にも社会的にも辛い逆境の中で生きているからこそ、より一層自然や人が見せる、穏やかさ、優しさ、温かさが身にしみ、心が揺さぶられるのでしょう。そのような気持ちを表現できればと思います。

I

信仰のために故郷の地を棄てなければならなかったカクレキリシタンの望郷の歌である日本民謡の「ハイヤ節」と、西洋由来の「グレゴリオ聖歌」の拮抗によって、構成されています。故郷への愛を表現する「ハイヤ節」と、どこか物悲しい旋律の「グレゴリオ聖歌」の絡みが、不遇な人生を送らざるを得なかった人々の気持ちを私たちに想起させます。

II

外国人宣教師の下、迫害されることなく信仰を深めることができた、キリシタンにとっての「平和な時代」。そんな時代に歌われていたであろう「グレゴリオ聖歌」と、現在まで語り継がれてきた祈りの言葉である「おらしよ」によって、構成されています。第1楽章でも用いられた「グレゴリオ聖歌」の旋律は、400年前に日本に伝わり今でもほとんど同じ状態で残っている一方で、ヨーロッパではもう歌われていません。ヨーロッパから遥か離れたこの日本で、祖国で忘れられたメロディが400年間受け継がれてきた信仰の世界のスケールの大きさに、ただただ圧倒されます。

III

弾圧を受け殉教した先祖を崇拝する気持ちを、歌おらしよと呼ばれる「ダンジク様のお歌」と「サンジュワン様のお歌」や民謡「獅子の泣き歌」を中心として表現しています。殉教とは、棄教を強要されても応じない末、命を奪われることです。

「ダンジク様のお歌」は殉教者たちを称え、自分たちもそのような強い信仰心で「パライゾ(天国)の寺」へ行きたいという願いを表現しています。「今は迫害が厳しく辛い、殉教者のように強い信仰心をもてば、未来には助かる道が開けている」と歌われています。「サンジュワン様のお歌」は、先祖が散っていった荒い海や切り立った崖の様子を詠んでいます。未作曲の部分で「今は、キリシタンは桜の花のように散っていくが、また来る春には、きっと信仰のつぼみが美しく開くだろう」と述べられており、逆境に負けず希望をもてば救われる、という願いを高らかに表現しています。そして、先祖たちが散っていった過去を感じさせないほど、自然が安らかであることに対する感慨を「獅子の泣き歌」に乗せて歌い上げます。

I

ひとつ唄いましょ はばかりながらヨ
唄のあやまりゃ サーマ
エー ごめんなりよ

鯛は瀬に棲む 鳥や木にとまるヨ
人は情けの サーマ
エー 下に住むよ

風よ荒らすな 荒波やたつなヨ
儂の様やは サーマ
エー 灘に居るよ

泣いてくれるな 出船のときはヨ
沖で櫓櫓の サーマ
エー 手につかぬよ

II

きりやれんず きりすてれんず きりやれんず
Kyrie, eleison. Christe, eleison. Kyrie, eleison.
(主よ、あわれみたまえ。キリストよ、あわれみたまえ。主よ、あわれみたまえ。)

ぐるりよおざ どみぬ いきせんさ す(ん)でら しでら
O gloriosa Domina excelsa super sidera,
que te creavit provide, lactasti sacro ubere.

(おお、遙か天空の星々の輝きにも増して、一段と高く明るく輝ける聖母よ。
汝は神の摂理によって生まれ、神意によりイエスを聖なる乳房で育んだ。)

みぜれめん でお せこんど まんな みじりこうれりゃ とわ
Miserere mei, Deus, secundum magnam misericordiam tuam—
(神よ、あなたの大きな慈しみをもって、私をお憐れみ下さい—)

あめ まりあ がら(っ)しゃ めんな どもすてこ べねた
Ave Maria, gratia plena, Dominus tecum, benedicta—
(幸いあれマリア、恵みおおきき、汝は神とともにおわします。祝福は—)

ばんじにかないたもう てんちをつくりたまいて
おんおやでうす (Deus) の そのおひとりご
われらがおんあるじ ぜずきりすと (Jesu Christo)
しんじたてまつる

そのみこ すべりとさんと (Spirito Santo) の ごきとくをもって
やどされたまいて びるぜんまりや (Virgem Maria) より
うまれたもう

ぼんせりやぴりやと (Pontio Pilato) が
かしゃく (苛責) をうけくらい くろす (Crus) にかけれ
ししたまいて みひつぎにおさめられたもう

だいちのそこに おりたまいて みつかめに よみがえりたもう
おんおやでうすの おんみぎに そなわれたもう
それより いきたるひと ししたるひとを ただしたもうために

てんよりくだりたもうべし
さんたいきりじゃ (Santa Ecclesia) さんたす (Santas) みの
とよりようしたもうこと とがのおんゆるしは

にくしん (肉身) に よみがえるべきこと おわりなきいのちは
まことにしんじたてまつる
あんめいいえぞすまりや (Amen Jesus Maria)。

Kyrie, eleison. Christe, eleison. Kyrie, eleison.
(主よ、あわれみたまえ。キリストよ、あわれみたまえ。主よ、あわれみたまえ。)

III

汐は半から満ちね 月や八さがるよ
こころぼそさよ 鳥のこえ

瀬戸の潮騒やね 波打つ際によ
船櫓押すのが 儂が様

獅子の泣き唄よ 仏の前でね
ひとつ歌えば 供養になる

アー 参ロヤナ 参ロヤナア
パライゾノ寺ニゾ 参ロヤナア
パライゾノ寺トワ 中スルヤナア
広イナア寺トワ 中スルヤナア
広イナア狭イワ ワガ胸ニ アルゾヤナア

アー 前ワナ 前ワ
泉水ヤナア
後ワナ
高キ 岩ナルヤナア
前モナ 後モ
潮デ アカスルヤナア

アー 参ロヤナ 参ロヤナア
今ワナ
涙ノ谷ナルヤナア
先ワナ
助カル道デ アルゾヤナア

獅子はよいところよ 朝日を浴びてね
お山風の そよそよと

学生指揮者 大前泰樹

何か一言発するだけで笑いが取れてしまう、そんな絶妙なセンスを持ったゆとり世代の寵児、大前泰樹。またの名を前やん。しばしばゆとりと囃されるが、本気になれば熱い男だ。夏休みには「おらしよ」のルーツを探るため、はるか長崎まで旅に出た。もちろん練習のときだって思いを伝えるのに真剣だ。

「もっとほったの筋肉を持ち上げて下さい！ ほら、ここ、なんて言うんでしたっけ？ えー、そう！ アンパンマンの顔の隆起してるところです！……。まあつまり、笑顔になって下さいということですね。」

伝わっていても、いなくても、団員は今日も笑顔である。



※歌詞については地域により差異がある。
また作曲上その一部を省略変更した箇所がある。

Jesu, meine Freude BWV 227

作曲 J. S. Bach

音楽には単に音の楽しみだけに終わらない場合があることは、そのような経験をされた方にはよくお判りいただけると思う。それがテキストを伴う作品である時、歌詞の領域と音楽の世界が融合して、かけがえのないもの、多少大げさに言うと人生において重要な位置を占めるような内容を楽しむ場合がある。バッハのモテット「イエスよ、私の喜び」は、本質に深く対峙してゆけば、間違いなくそのような感動を味わえる作品のひとつである。

作曲家が曲を付けるテキストを選択するということは、きわめて重要な作業である。バッハはこのモテットに2つの異なったソースを持つテキストを用いた。「イエスよ、私の喜び」というタイトルで知られるコラールの歌詞と、旧約聖書の中でも神学的な解釈のテーマとなることも多い「ローマ人への手紙 第8章」である。そしてそれぞれのテキストは異なった音楽のスタイルで、すなわちコラールは、バッハの職人芸が生きたコラール編曲の形で、聖句はさまざまな編成を持つ伝統的なモテット楽曲のスタイルで、作曲されている。

バッハがひとつの作品の中に複数の種類のテキストを用いることは珍しいことではない。彼の受難曲には3つの異なったテキストが用いられていて、表現の重層的な構成要素となっている。しかしこのことにより、彼が強い表現意欲を示しているということが明確になる。モテット「イエスよ、私の喜び」においては、具体的にはこの2種類のテキストによる音楽を外側から内側へむけて対称性を持つように交互に配置して、楽曲全体にまたがる大きなシンメトリーを構築したのである。そしてその中心に位置する楽曲を、音楽面からもテキストの上からも最重要の楽曲と位置づけることを意識させたのであった。しかし音楽という瞬間性のある芸術で、この構成感を演奏中に同時に感じさせることは困難である。このモテットは、バッハのほかの重要作品にもしばしば観察されるように、演奏を伴う音楽の範疇を超え「書き残された作品」として、存在そのものの価値を感じさせる代表的な作品ということができる。

ほとぼしるようなイエスへの熱い思慕を歌った第1曲のコラール(4声)に、5声による第2曲の合唱が続く。「キリストにあるものは、肉によって歩くのではなく、霊によって歩く」というテキストが峻厳に歌われる。「肉によって歩く」の「歩く」という語がまるでさまようように転回する様子、あるいは「罪に定められることはない」「ない」という語を強調する休符が印象的な音楽である。第3曲のコラール(5声)は、激烈なテキストを鋭いリズムや不協和音で表現している。第4曲はバッハには珍しい女声3部の編成をもつ音楽で短い曲ながら3つの部分を持つ。「罪と死の法則から私を解放した」というテキストの通り、「解放した」自由な音調が美しく響く。第5曲は非常に精緻なコラール編曲で、一度耳にただけではコラールの旋律が仕込まれているとは気がつかないほどである。バッハの芸術は編曲だけではなく、一語一語に入念なレトリックによる表現を盛り込み、内容的にも非常に多彩な音楽となっている。第6曲の合唱曲が先に述べた全曲の中心になる音楽で、5声によるフーガが配置されている。音楽的にも充実度の高い対位法を用いている。テキストは「あなたがたは肉におるのではなく、霊におるのである」という、再三この聖句が表す内容を簡潔に表現している部分である。

第7曲は4声によるコラール編曲で、「悲惨、困窮、十字架、死」といったネガティブなテキストに、ため息の動機が配されているのが興味深い。第8曲は先の第4曲に対応した3声の音楽で「罪の死」の沈みきった音調と「霊は義ゆえに生きている」ということを表現する快活な16分音符のコントラストが見事である。第9曲は4声(SSAT)によるコラールの編曲であるが、コラールの編曲ということのを忘れさせるような美しいヴァリエーションが付されている。この世に別れを告げるという意味の「さようなら、この世よ」というテキストを持ち、テノールが低音を模し、ソプラノが2声で美しい2重唱を響かせる。第10曲は第2曲と対称の位置におかれた合唱曲で、印象的な休符がない代わりに「あなたの死ぬべきからだをも生かしてくださるだろう」というテキストに付された、勝利宣言とでも言えるようなファンファーレの音型が印象に残る。シンメトリーの外枠を第11曲の4声のコラールが担う。冒頭の「イエスよ、私の喜び」のテキストが結尾を締めくくるテキストとして用いられ、イエスへの思いが余韻を伴って歌われ、全曲が閉じられる。

(本山秀毅)

客演指揮者 本山秀毅

京都市立芸術大学音楽学部卒業。フランクフルト音楽大学合唱指揮科卒業。帰国後にはバッハを主とする教会音楽を中心に演奏活動を続ける。「バッハアカデミー関西」を設立し、「教会暦によるカンタータシリーズ」によりバッハの声楽作品の全曲演奏に取り組んでいる。1995年にはオレゴンバッハフェスティバルに、また2002年5月にはライブツウィッチバッハフェスティバルに招聘され、バッハのミサ曲などを演奏し好評を博した。また一般、大学合唱団の客演指揮者、合唱指導法などの講習会の講師、全日本合唱コンクールをはじめとするコンクールの審査員として合唱音楽の普及にも努めている。同時に関西におけるプロ合唱団とオペラ作品の合唱指揮でも活躍している。第15回藤堂音楽褒賞、2001年度京都市芸術新人賞受賞。指揮をヘルムート・リリンク、ヴォルフガング・シェーファー、ウベ・グロノスタイの各氏に師事。現在、大阪音楽大学教授。びわ湖ホール声楽アンサンブル、大阪センチュリー合唱団専任指揮者。京都バッハ合唱団主宰。



1. Jesu, meine Freude

Jesu, meine Freude,
Meines Herzens Weide,
Jesu, meine Zier.
Ach wie lang, ach lange
Ist dem Herzen bange
Und verlangt nach dir!
Gottes Lamm, mein Bräutigam,
Außer dir soll mir auf Erden
Nichts sonst Liebers werden.

1. コラール 第1詩節

イエスよ、私の喜び
私の心の牧者よ、
私の飾りであるイエスよ。
ああ、なんと長いあいだ
私の心があなたをこわがり、
あなたを求めていることだろうか。
神の子羊、私の花婿よ、
この世にはあなたをおいてほかに
私の心を捉えるものは何一つありません。

2. Es ist nun nichts Verdammliches

Es ist nun nichts Verdammliches
an denen, die in Christo Jesu sind,
die nicht nach dem Fleische
wandeln, sondern nach dem Geist.

2. 合唱

今やキリスト・イエスにある者は
罪に定められることがなく、
肉によって歩くのではなく、
霊によって歩くのである
(ローマ人への手紙8:1)

3. Unter deinem Schirmen

Unter deinem Schirmen
Bin ich vor den Stürmen
Aller Feinde frei.
Laß den Satan wüthen,
Laß den Feind erbittern,
Mir steht Jesus bei.
Ob es izt gleich kracht und blüzt,
Ob gleich Sünd und Hölle schrecken:
Jesus will mich decken.

3. コラール 第2詩節

あなたの後援があるので
私はどんな敵の突進も
こわくありません。
サタンよ、荒れ狂うがよい、
敵よ、たけり狂うがよい、
私にはイエスの後援がある。
いくら雷鳴がとどろき、稲妻が走ろうと
たとえ罪と地獄が口をあけておどしても
私にはイエスの援護がある。

4. Denn das Gesetz

Denn das Gesetz des Geistes, der
da lebendig machet in Christo Jesu,
hat mich frei gemacht von dem
Gesetz der Sünde und des Todes.

4. 合唱

なぜなら、キリスト・イエスにある
いのちを与える御霊の法則は、
罪と死の法則から
私を解放したからである
(ローマ人への手紙8:2)

5. Trotz dem alten Drachen

Trotz dem alten Drachen,
Trotz des Todes Rachen,
Trotz der Furcht darzu!
Tobe, Welt, und springe.
Ich steh hier und singe
In gar sichrer Ruh.
Gottes Macht hält mich in acht;
Erd und Abgrund muß verstummen,
Ob sie noch so brummen.

5. コラール 第3詩節

さあ、年を経た竜よ
さあ、死のあざとよ
さあ、死の恐怖よ、おそいくるがよい。
この世よ、暴れ、裂けるがよい。
それでも私はここに立って
平然とうたうのだ。
私は神の力に守られているのだから。
地と地獄よ、きみたちがいくらぶつぶついおうとも
いずれは黙り込むしかないのだ。

6. Ihr aber seid nicht fleischlich

Ihr aber seid nicht fleischlich,
sondern geistlich, so anders Gottes Geist
in euch wohnt. Wer aber Christi Geist
nicht hat, der ist nicht sein.

6. 合唱

しかし、神の御霊があなたがたの内に宿っているなら、
あなたがたは肉におるのではなく、霊におるのである。
もし、キリストの霊を持たない人がいるなら、
その人はキリストのものではない
(ローマ人への手紙8:9)

7. Weg mit allen Schätzen

Weg mit allen Schätzen!
Du bist mein Ergötzen,
Jesu, meine Lust!
Weg ihr eitlen Ehren.
Ich mag euch nicht hören,
Bleibt mir unbewußt!
Elend, Not, Kreuz, Schmach und Tod
Soll mich, ob ich viel muß leiden,
Nicht von Jesu scheiden.

7. コラール 第4詩節

すべての財宝よ、去るがよい、
あなたがたが私の楽しみなのです、
イエスよ、私の喜びよ。
空しい栄誉よ、去るがよい。
きみたちに貸す耳などない。
私の知らないところに行くがよい。
悲惨、困窮、十字架、そして死よ、
きみたちがいくら苦しめようと
私をイエスから離すことはできない。

8. So aber Christus

So aber Christus in euch ist, so ist
der Leib zwar tot um der Sünde willen;
der Geist aber ist das Leben
um der Gerechtigkeit willen.

8. 合唱

もし、キリストがあなたがたの内に宿られるなら
からだは罪ゆえに死んでいても
霊は義のゆえに生きているのである
(ローマ人への手紙8:10)

9. Gute Nacht, o Wesen

Gute Nacht, o Wesen,
Das die Welt erlesen,
Mir gefällt du nicht.
Gute Nacht, ihr Sünden,
Bleibet weit dahinten,
Kommt nicht mehr ans Licht!
Gute Nacht, du Stolz und Pracht!
Dir sei ganz, du Lasterleben,
Gute Nacht gegeben.

9. コラール 第5詩節

さようなら、おお
この世をえらんだ人よ!
あなたは私の気に入らない。
さようなら、罪たちよ!
ずっと後に追いついて、
もう明るいところには来ないでくれ!
さようなら、高慢よ、豪奢よ!
さては悪徳の生活よ、
もうきっぱりとお別れだ!

10. So nun der Geist

So nun der Geist des, der Jesum
von den Toten auferwecket hat, in euch wohnt,
so wird auch derselbige, der Christum
von den Toten auferwecket hat,
eure sterbliche Leiber lebendig machen
um des willen, daß sein Geist in euch wohnt.

10. 合唱

もし、イエスを死人のなかから甦らせたかたの御霊が、
あなたがたの内に宿っているなら、
キリスト・イエスを死人のなかから甦らせたかたは、
あなたがたの内に宿っている御霊によって、
あなたがたの死ぬべきからだをも、
生かしてくださるであろう
(ローマ人への手紙8:11)

11. Weicht, ihr Trauergeister

Weicht, ihr Trauergeister,
Denn mein Freudenmeister,
Jesus, tritt herein.
Denen, die Gott lieben,
Muß auch ihr Betrüben
Lauter Zucker sein.
Duld ich schon hier Spott und Hohn,
Dennoch bleibst du auch im Leide,
Jesu, meine Freude.

11. コラール 第6詩節

退け、悲しみの霊よ!
私の喜びの主であるイエスが
お入りになるのだから。
神を愛する者にとっては、
きみたちの悲しみも
甘い砂糖でしかない。
私がここで嘲りと辱めを受けようとも、
あなたはいつも私と共に宿られるのです、
イエスよ、私の喜びよ

訳: 東川清一

Krönungsmesse in C-Dur, KV 317 戴冠式ミサ

作曲 W. A. Mozart

OBOG合同ステージ



今回の合同ステージの開催が正式に決まったのは、昨年3月のことです。数年前から50周年目には何か大きな企画をやりたいという話はあったのですが、何せ50年間の永い歴史を見渡しても現役生・卒団生の合同ステージというのは史上初の試みで、運営の勝手もまるで分からず、不安を抱えてのスタートでした。それでも指揮者を決め、曲を決め、運営体制はあししようこうしよう会議を重ね、何とか軌道に乗ったのが今年の春。全国の卒団生に今回のステージを正式に告知し参加を呼びかけたところ、予想を遥かに超える人数の申し込みがあり、嬉しいやら戸惑うやら。それでも、初めてステージに乗るメンバー全員が一堂に会し声を合わせた瞬間には、今まで味わったことのない鮮烈な感情が胸に湧き上がってきました。それはこれだけの人が、ただ歌うことを通じて繋がっている、ということへの感動と、その架け橋になった喜びでした。

今回のステージを企画するにあたって、ただの「同窓会」に終わらせず、ハイマートの50年間の歴史に恥じない、格調高い上質の演奏をしたい、という思いが強くなりました。そのために練習計画を綿密に立て、また歌手同士が信頼し合える仲間として舞台上に上がるために、なるべく多くの時間を共有して親交を深めようと、交流会を開くといった工夫も積極的に行いました。今宵皆さまの前に立つは、年代もばらばら、価値観もばらばらの、しかし胸に一つ同じ思いを秘めた「合唱団」です。50年の歴史を歌い継いできた多くのハイマート団員達の声が織り成すハーモニーを、どうぞ心ゆくまで堪能ください。

第50回記念定期演奏会委員長 吉田守伸

この度は京都大学音楽研究会ハイマート合唱団第50回記念定期演奏会に足をお運びいただき、誠にありがとうございます。今回OBOG世話役を務めさせて頂いております、横山と申します。

ハイマート合唱団の50年という長い歴史の中で初となるOBOG合同ステージを実施したい、という意向を最初に現役生より聞いたとき、正直少し驚きました。構成員によってその雰囲気や方向性が大きく変わることもある大学のサークル。今までに経験がないことへのチャレンジは、その規模に相応するリスクも伴います。現役生のこの勇気ある決断に拍手を送ると共に、OBとして少しでも協力できれば、との思いで、未熟者ながら世話役代表を引き受けさせて頂きました。

今回合同ステージに200名近くのOBOGの皆様の参加があったことは、長年に渡りハイマート合唱団をご指導いただいた伊吹新一先生の魅力と求心力の現れであるに違いありません。本日合同ステージで指揮者を務められるOBの上田祥行さんを中心としてこの日まで現役生たちと共に練習を重ねて参りましたが、懐かしく集まったという同窓会的な意義を超えて、伊吹先生の下で培った「ハイマートの音楽」という共通項を言葉ではなく音・空気・雰囲気でも熱く強く感じることができ、毎回感激せずにはいられていませんでした。

これまでのハイマートの総決算ともいえる今日の演奏会を、どうぞごゆっくり、そしてたっぷりと、楽しんでいただければ幸いです。

38期OB・第50回記念定期演奏会OBOG世話役代表 横山智昭

Kyrie

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

主よ、あわれみたまえ。
キリストよ、あわれみたまえ。
主よ、あわれみたまえ。

Gloria

Gloria in excelsis Deo.
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.
Laudamus te. Benedicimus te. Adoramus te. Glorificamus te.
Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.
Domine Deus, Rex caelestis, Deus Pater omnipotens.
Domine Fili unigenite, Jesu Christe.
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.
Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.
Qui tollis peccata mundi, suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis.
Quoniam tu solus Sanctus, tu solus Dominus.
Tu solus Altissimus, Jesu Christe.
Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris.
Amen.

天のいと高きところには、神に栄光。
地には善意の人に平和あれ。
われら主をほめ、主を祝福し、主を拝み、主をあがめ、
主の大なる栄光のゆえに主に感謝したてまつる。
神なる主、天の王、全能の父なる神よ。
主なる御ひとり子、イエス・キリストよ。
神なる主、神の子羊、父のみ子よ。
世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。
世の罪を除きたもう主よ、われらの願いをききいれたまえ。
父の右に座したもう主よ、われらをあわれみたまえ。
主のみ聖なり、主のみ王なり、
主のみいと高し、イエス・キリストよ。
聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。
アーメン^{※1}。

Credo

Credo in unum Deum,
Patrem omnipotentem, factorem caeli et terrae,
visibilem omnium, et invisibilem.
Et in unum Dominum Jesum Christum, Filium Dei unigenitum,
Et ex Patre natum ante omnia saecula.
Deum de Deo, lumen de lumine, Deum verum de Deo vero.
Genitum, non factum, consubstantialem Patri,
per quem omnia facta sunt.
Qui propter nos homines, et propter nostram salutem,
descendit de caelis.
Et incarnatus est de Spiritu Sancto ex Maria Virgine,
et homo factus est.
Crucifixus etiam pro nobis sub Pontio Pilato passus,
et sepultus est.
Et resurrexit tertia die, secundum Scripturas.
Et ascendit in caelum, sedet ad dexteram Patris.
Et iterum venturus est cum gloria judicare vivos et mortuos,
cujus regni non erit finis.
Et in Spiritum Sanctum, Dominum et vivificantem,
qui ex Patre Filioque procedit.
Qui cum Patre et Filio simul adoratur, et conglorificatur,
qui locutus est per Prophetas.
Et unam sanctam catholicam et apostolicam Ecclesiam.
Confiteor unum baptismam in remissionem peccatorum.
Et exspecto resurrectionem mortuorum.
Et vitam venturi saeculi.
Amen.

われは信ず、唯一の神。
全能の父、天と地、
見ゆるもの、見えざるもの、すべての造りぬしを。
われは信ず、唯一の主、神の御ひとり子、イエス・キリストを。
主はよらず世のさきに父より生まれ、
神よりの光、光よりの光、まことの神よりのまことの神、
造られずして生まれ、父と一体なり、
すべては主によりて造られたり。
主はわれら人類のため、またわれらの救いのために、
天よりくだり、
聖霊によりて、処女マリアより御からだをうけ、
人となりたまえり。
ポンシオ・ピラト^{※2}のもとにて、われらのために十字架につけられ、
苦しみを受け、葬られたまえり。
聖書にありしごとく、三日目によりみがえり、
天にのぼりて父の右に座したもう。
主は栄光のうちに再び来たり、生ける人と死せる人とを裁きたもう、
主の国は終わることなし。
われは信ず、主なる聖霊、生命の与えぬしを、
聖霊は、父と子よりいで、
父と子とともに拝みあがめられ、
また預言者によりて語りたまえり。
われは一・聖・公・使徒継承の教会を信じ、
罪のゆるしのためなる唯一の洗礼を認め、
死者のよみがえりと
来世の生命とを待ち望む。
アーメン。

Sanctus

Sanctus, Sanctus, Sanctus Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt caeli et terra gloria tua.
Hosanna in excelsis.

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神なる主。
主の栄光は天地にみつ。
天のいと高きところにホザンナ^{※3}。

Benedictus

Benedictus qui venit in nomine Domini.
Hosanna in excelsis.

ほむべきかな、主の名によりて来たる者。
天のいと高きところにホザンナ。

Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
miserere nobis.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona nobis pacem.

神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
われらをあわれみたまえ。
神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
われらに平安を与えたまえ。

※1…「まことにそうありますように」の意。
※2…イエスを処刑したユダヤ州の総督。
※3…ヘブライ語で「いま敬いたまえ」の意。

Wolfgang Amadeus Mozart (モーツァルト)は18世紀後半にドイツ・オーストリアで活躍した作曲家であり、これまでハイマート合唱団が数多く演奏してきたHaydn (ハイドン)、Beethoven (ベートーヴェン)と並んでウィーン古典派の巨匠として知られる。Mozartは幼い頃から神童と称され、生涯で700を超える曲を作曲した。今宵演奏する『ミサ曲ハ長調KV 317〈戴冠式ミサ〉』は、彼が23歳のときに作曲したミサ曲である。

モーツァルトが作曲した17曲のミサ曲の中で最も有名なミサ曲とされるこの曲は、ザルツブルク大聖堂における1779年4月の復活祭の式典にて初演されたと考えられている。復活祭とはキリスト教の暦において最も重要な祝いの日で、十字架にかけられたイエス・キリストが復活したことを記念する式典である。その式典にふさわしく、明るく力強い祝典的雰囲気を感じたミサ曲である。初演の後、神聖ローマ皇帝レオポルド2世もしくはフランツ2世の戴冠式の記念ミサで演奏されたと考えられており、そのため『戴冠式ミサ』と呼ばれるようになった。色彩豊かなオーケストレーションと金管の輝かしい響きを兼ね備えたこのミサ曲は、Mozartの作風に大きく影響を与えたマンハイム・パリ旅行を終えた直後の作品であり、それまでのMozartの作品に比べて規模が大きく、力強さを持っている。

この作品は全6楽章から成る。厳粛で荘厳な雰囲気と美しいメロディーを具えた『Kyrie 憐みの賛歌』、主の栄光を輝かしく讃える『Gloria 栄光の賛歌』、自らの信仰の宣言とキリストの受難の場面をドラマチックに描く『Credo 信仰宣言』、主への大いなる感謝を雄大に歌う『Sanctus 感謝の賛歌』、ソリストによる共演が美しい『Benedictus 祝福の賛歌』、ソプラノソロの心を揺さぶる旋律と共に平和を祈願する『Agnus Dei 平和の賛歌』。いずれの楽章も、Mozartの曲の特徴である甘美なメロディーと豊かな色彩の変化を存分に楽しむことができるだろう。

ハイマート合唱団の演奏会プログラムの特徴は、バロック・古典派から現代音楽まで幅広いレパートリーを演奏することである。名誉指揮者、伊吹新一先生のもと、団員の誰もがこれらの幅広い音楽に幾度も触れ、感性を育ててきた。本日の現役・OBOG合同ステージはハイマート合唱団がこの50年で育んだものの集大成である。現役生・OBOG・オーケストラの、総勢330名による、祝典曲として名高いMozartのミサ曲の演奏を、どうぞご堪能いただきたい。

指揮者 上田祥行

指揮者 上田祥行

斎藤流指揮法を伊吹新一、合唱指導法を鈴木成夫、合田芳弘、発声法を小林正夫の各氏に師事。Bo Nilsson, Erwin Ortner, Kaspars Putninsの各氏に指揮指導を受ける。若手合唱指揮者の登竜門とされる第2回Eric Ericson国際合唱指揮者コンクールで日本人として初めてQuarter Finalに進出。指揮技術を高く評価され、新聞紙上で大きく紹介された。これまでコンクール課題曲のモデル演奏や、管弦楽団との共演、千原英喜、Steve Dobrogosz、横山智昭の各氏への新曲委嘱など多岐にわたる活動をしている。京都大学音楽研究会ハイマート合唱団第43期(2005年)卒団生で、在団中はテノールパートリーダー、学生指揮者を務めた。卒団後は、第48回(2009年)定期演奏会においてF.J.Haydnの『戦時のミサ』を伊吹新一氏の代理として指揮、同志社混声合唱団こまくさとのジョイントコンサート(2010年)において合同ステージの客演指揮者を務めるなど、指揮者として現役生と演奏を共にしている。現在、合唱団Vivo常任指揮者、JCA(全日本合唱連盟)ユース・クワイア2012指揮者アシスタントを務めている。

オルガン 中山幾美子

同志社女子大学学芸学部音楽学科及びハンブルク国立音楽大学オルガン科卒業。ハンブルク、京都などでリサイタルを行う。二度にわたりポーランドのクラコフ夏期オルガン連続演奏会にて招聘演奏した他、京都コンサートホール、宝塚バグホールなどで度々演奏。また1997年より日本キリスト教団京都教会にて、10回にわたりオルガンのコンサートシリーズを行った。ソリストとしての活動のほかに、通奏低音奏者、伴奏者として数多くのカンタータ、ミサ曲等の演奏会に出演。室内楽やオーケストラとの共演も多い。2005年CD『クリスマス・オルガン曲集』をコウベレックスよりリリース。

現在、同志社女子大学嘱託講師。同志社大学、同志社女子大学などでオルガニストを務めながら、活発な演奏活動を行っている。日本オルガニスト協会会員。

第50回記念定期演奏会特別編成オーケストラ

ハイマート合唱団の第50回の記念すべき本演奏会を機に結成。京都大学交響楽団のOBを中心とし、関西のアマチュアオーケストラで活躍するメンバーで構成される。

Soprano 浅井順子^{のりこ}

神戸女学院大学音楽学部声楽科卒業及び研修生修了、畑きみ子女史師事。大阪音楽大学専攻科を合唱指揮で修了、本山秀毅氏師事。

飯塚新人音楽コンクールにてグランプリ受賞。海外研修を経てバルマ・ド・オーロ国際室内音楽コンクール(伊)にて第2位(1位なし)及び特別賞受賞。その他国内では、京都芸術祭賞など受賞。

オペラでは「蝶々夫人」「椿姫」「シンデレラ」などのタイトルロールや多くの主役を務めるほか、「メサイヤ」「第九」他のソリスト、その他NHK・FMリサイタルなどの放送にも出演。ファウエム社よりソロCDアルバムを発表、それを記念して開いた初リサイタルにて青山音楽賞受賞。

現在、ハイマート合唱団、同志社大学混声合唱団こまくさ、鈴鹿女声各ヴォイストレーナー。合唱団LABOでは指揮者として、関西合唱コンクールに参加し金賞・銀賞受賞。京都市立堀川音楽高校非常勤講師。関西二期会、神戸音楽家協会各会員。

Alto 桐山明子

京都市立芸術大学音楽学部卒業。在学中、定演、卒演、NHK新人演奏会に出演。二期会オペラ「るつぽ」マーシールイス役でデビュー。以後、「フィガロの結婚」花娘、ケルビーノ、「魔笛」少年、侍女、「三文オペラ」ジェニーなどを演じる。なかでも「ヘンゼルとグレーテル」のヘンゼル役では、日生オペラ、二期会オペラをはじめ、関西一円で公演を重ね、好評を得ている。03、04年の大阪フィルハーモニー交響楽団アルカイック定期演奏会に於いても同役で出演している。99年には大阪センチュリー交響楽団定期演奏会に於いて、「子どもと魔法」の坊や役を演じ、好評を博した。また、「第九」、「メサイヤ」、ミサ曲等のアルト、第二ソプラノソリストとしても多数出演。他に05、06年大阪城野外オペラ「千姫」では常高院役を演唱。カワイクラシックシリーズや、オペラガラコンサート、二期会企画コンサート等にも出演。幅広い演奏活動を行っている。小室彰子、佐々木成子の両氏に師事。

現在、ハイマート合唱団ヴォイストレーナー。関西二期会会員。

Tenor 藤田大輔

長野県長野市出身。高校在学中に合唱の楽しさを知り、京都大学工学部に入學後、同大音楽研究会ハイマート合唱団に入団。同大大学院に進学したのちソロで歌う楽しさを感じ、声楽を本格的に学び始める。大学院修了と同時に関西二期会オペラ研修所に入所。同第44期本科修了。第10回大阪国際音楽コンクール声楽部門入選。

これまでに、関西二期会室内歌劇場公演で「愛の妙薬」ネモリーノを演じたほか、オペラでは「フィガロの結婚」「椿姫」に出演。2012年5月には関西二期会定期公演「アドリアーナ・ルクヴール」に出演予定。オペラ以外では、ドイツ・ロシア歌曲や宗教曲を好んで演奏する。清涼感のある声を活かし、バッハ「教会カンタータ」、ブラームス「愛の歌」などでソリストを務める。若手音楽家のグループ「アート・スプラウト」での活動も多い。

現在、関西二期会準会員、私立阪南大学高等学校教諭、アンサンブルコーラス「コール・ピンネ」メンバー。小林正夫氏に師事。

Bass 雁木 悟

87年にオペラデビュー、関西二期会・日生オペラ劇場・神戸アーバンオペラハウス・カレッジオペラハウス・堺シティオペラ他、多数のオペラプロデュース等にソリストとして参加。「セヴィリアの理髪師」「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「コシ・ファン・トゥッテ」「後宮からの逃走」「魔笛」「皇帝ティトの慈悲」「ラ・ボエム」「トスカ」「蝶々夫人」「魔弾の射手」「ヴォツェック」「宮廷楽士長」「カルメン」「カヴァレリア・ルスティカーナ」「パリアッチ」「アイダ」「ボッパアの戴冠」「愛の妙薬」「沈黙」「岩長姫」「シャーロックホームズの事件簿」「小来栖の長兵衛」等、数多くの公演に主役又は主要なソリストとして出演し、いずれも好評を得る。中でもモーツァルトの三大オペラ、「セヴィリアの理髪師」「魔弾の射手」「ヴォツェック」の原語上演においては、各方面より高い評価を得る。又、「カルミナ・ブラーナ」「第九」「メサイヤ」「レクイエム」等のソリストとして、大阪フィル、大阪センチュリー、関西フィル、アンサンブル金沢、大阪シンフォニカー等のオーケストラと共演する傍ら、歌曲によるリサイタルや多くのジョイントコンサートを行う等意欲的な活動を行っている。又、00年度より文化庁芸術振興事業として、オペラ公演やワークショップ等にソリスト・講師として参加している。現在、関西二期会オペラ研修所の講師として後進の指導にあたる傍ら、産経新聞のコラムニストとして音楽コラムを連載している。関西二期会会員、神戸市立六甲アイランド高等学校音楽コース教諭、ハイマート合唱団ヴォイストレーナー。

Heimatのあゆみ

器楽演奏を主な活動とする音楽研究会の中に、10人程度の合唱グループとして始まる。
のちにドイツ語で「ふるさと」を意味するハイマートと命名。団員100名を超える合唱団に発展。

♪ 定期演奏会パンフレット集 ♪



♪ 我らが伊吹新一先生 ♪



大正14年、京都市生まれ。昭和18年立命大専門学部法政学科在学中、学徒勤労動員、兵役。終戦復員後、昭和21年立命大法学部に入學。大学初の男声合唱団を創設し長く指揮者を務める。昭和22年京都市役所渉外課に米軍宅でのクリスマス・キャロルの演奏を依頼され、リジュウエイ第8軍司令官宅などで演奏。昭和28年京都市立音大(現京都市立芸大)指揮科入学。故斎藤秀雄教授に指揮法を師事、関西における唯一の門下生。卒業後府立城南高校、堀川音楽高校教頭、昭和39年より京都市立音大・京都市立芸大講師(指揮法・合唱・管弦楽)、昭和57年より大阪芸大・奈良教育大大学院講師。門下からは世界で活躍する逸材を輩出している。合唱団・交響楽団・吹奏楽団など数多くの団体を指揮し、海外演奏も多数。

伊吹先生とハイマート合唱団とのつながりは、昭和40年、当時の団員が京都市立音大で教鞭を取っていらった伊吹先生を招聘し、京大の11月祭に時計台下大ホールで指揮をしていただいたことに始まります。以降第4回から第44回の定期演奏会まで実に41年間に渡り、ミサ・レクイエムなどの宗教曲の名曲を指導・指揮し続けてくださいました。伊吹新一先生のもとでキリスト教の精神を学び、本格志向の宗教音楽を演奏してきたことが、高い音楽性を求める精神につながり、我々の活動の根本となっています。ハイマート合唱団をここまで育てあげてくださった伊吹先生に、団員一同、深い感謝を捧げて止みません。

♪ 定期演奏会データ ♪

西暦	指揮者	伴奏	共演	会場	曲目	作曲者
1962 (1)	古賀 泰子 浜中 淑彦			時計台下ホール	ヴォルガ下り アレヤ 歓喜はあふれ 「天地創造」より いかるがの 夢/流浪の民 3つの山の詩	ロシア民謡 J. S. Bach F. J. Haydn 千秋次郎 R. Schumann 石井敏
1963 (2)	沖吉 和祐 林 哲三	土井武子 川崎裕子 佐々木和子	京都工織大男声合唱団 大岡茂子、野口泰子 武光重英、滝沢宏一	大谷ホール	なつかしいうた/マドリガル 冬のもてこし春だから 天地創造	清瀬保二 F. J. Haydn
1964 (3)	沖吉 和祐 林 哲三 橋本 良一	堀尾尚志 千秋次郎 川澄裕子	中村敏一、野口泰子 佃延、益子務、林恒徳 長安敏夫、北村孝雄	大谷ホール	アメリカソング集 催馬楽抄 「天地創造」より	千秋次郎 F. J. Haydn
1965 (4)	長安 敏夫 橋本 良一 伊吹 新一	船井美智子	京都薬工コーポラ 野口泰子、小林睦子 野口直樹、川辺道子 沖吉和祐、日野利昭	京都会館 第2ホール	刈干切唄 他 とても大きな望み マリニヤンの戦い わたしの願い Cantate Domino 他	日本民謡 中村茂隆 C. Janquin 高田三郎 H. L. Haßler
1966 (5)	橋本 良一 高島 武和 林 哲三 伊吹 新一	高橋明美 大城香 徳岡昭夫 橋本良一	岩倉洋一郎 矢野和雄、中西孝 日野利昭、和田啓子	京都会館 第2ホール	黒人霊歌/ロシア民謡 冬のもてこし春だから/原体剣舞 ミサ・セクンダ 富士山 蔵王	清瀬保二 H. L. Haßler 多田武彦 佐藤真
1967 (6)	高島 武和 田中 俊秀 河合 利彦 伊吹 新一	船井美智子 千秋次郎 坪井真理子 徳岡昭夫 高橋明美	田中俊秀、植田安生 高島武和、岩倉洋一郎 中西孝、日野利	京都会館 第2ホール	水のいのち ミサ曲第12番ト超長K. 232 黒人霊歌 球根 切支丹物語 マドリガル	W. A. Mozart 清瀬保二 松本民之介
1968 (7)	中村 昌夫 古川 健 伊吹 新一	有田義之	田代浩一郎、水野恭子 山口智子、植田安生 高島武和、杉本篤子 藤本道子、佐々木哲哉	府立勤労会館 大ホール	Messe C-dur K. 317 鶴崎 碑の墓 岩手民謡	W. A. Mozart 安井万治 団伊玖磨 千葉了道
1969 (8)	中村 昌夫 古川 健 高橋 隆夫 伊吹 新一		野呂治、佐々木哲哉 今井昭夫、植田安生 横山一郎、畑知子 高光子、古川健	京都会館 第2ホール	フォスター作品集 「鷹嘴洋一作品集」より とても大きな望み 十の詩曲	
1970 (9)	有田 義之 野呂 治 小柳 滋 伊吹 新一	千秋次郎 京都市民管弦楽団	小柳滋、中塚正 古市真、今井昭夫	京都会館 第2ホール	ルネサンス合唱曲集/ロシア民謡 富士山 Matrai Kepek Requiem K. 627	多田武彦 Z. Kodaly W. A. Mozart
1971 (10)	関谷 真 古市 真 中川 宗司 伊吹 新一	有田義之 蓮池秀子	指方秀雄 今井昭夫	京都会館 第2ホール	Four Slovak Folksongs 「日本民謡による12のインベンシ ョン」より 「モテット集」より Liebes Lieder Op. 52 イギリス、アメリカ民謡	B. Bartok 関宮芳生 G. L. Palestrina J. Brahms
1972 (11)	関谷 真 古市 真 岡田 重信 伊吹 新一	関谷真 矢沢千絵 北岸恵子 高橋一男	加藤信子 竹中和代 西原秋子	府立勤労会館 大ホール	Four Slovak Folksongs 「知恵子抄」より 碑の墓 山田耕作作品集より Singet dem Herrn ein neues Lie d BWV225	B. Bartok 清水脩 団伊玖磨 J. S. Bach
1973 (12)	岡田 重信 指方 秀雄 元木 信弥 伊吹 新一	関谷真 京都市民管弦楽団	指方秀雄、米澤俊彦 小森周、宮本初美 元木信弥、船瀬幸子 尾形光雄、大城関	時計台下ホール	水のいのち 男声合唱曲 童謡 Jesu, meine Freude BWV227 「四季」より	高田三郎 Z. Kodaly J. S. Bach F. J. Haydn
1974 (13)	元木 信弥 米澤 俊彦 小笠原隆亮			府立勤労会館 大ホール	わたしの動物園 人間の歌 筑後川 Fest-und Gedenksprüche Op. 109 Furchte dich nicht, ich bin be i dir BWV228	大中恩 多田武彦 団伊玖磨 J. Brahms J. S. Bach
1975 (14)	小笠原隆亮 喜多 秀行 土岐 一郎 伊吹 新一	加藤ひろ子 京都市民管弦楽団	正木真理、荒木徳子 村上ひろ子、元木信弥 尾形光雄、灘井誠	京都会館 第2ホール	コタンの歌 朝太郎の4つの詩 Komm, Jesu komm BWV229 ハインリッヒミサ	湯山昭 清水脩 J. S. Bach J. Haydn
1976 (15)	土岐 一郎 大西 直哉 石原 哲 伊吹 新一	加藤ひろ子		大谷ホール	日曜学校のころ 多田武彦作品集 心の四季 Singet dem Herrn ein neues Lie d BWV225 ワーグナー合唱曲集	大中恩 多田武彦 高田三郎 J. S. Bach

西暦	指揮者	伴奏	共演	会場	曲目	作曲者
1977 (16)	高嶋 昌二 大西 直哉 伊吹 新一	加藤ひろ子、岩崎勇 上原雄輔、相川定義 八木茂夫 京都市民管弦楽団	正木真理 西八條靖子 村上ひろ子 尾形光雄	京都会館 第2ホール	「小さな目」より 光る砂漠 Five Flower Songs Magnificat D-dur BWV243	三善晃 萩原英彦 B. Britten J. S. Bach
1978 (17)	大西 直哉 永安 孝好 田所 邦彦 伊吹 新一	加藤ひろ子 高嶋昌二 阪田誠康 京都市民管弦楽団	大西多恵 田子みどり 荒木徳子 大西直哉、石原哲	京都会館 第2ホール	島よ Liebes Lieder Op. 52 「五つの童画」より Nelsonmesse	大中恩 J. Brahms 三善晃 F. J. Haydn
1979 (18)	種谷 元隆 栗本 昭一 伊吹 新一	川北佳代子 京都市立堀川高校 音楽科		大谷ホール	都会 嫁ぐ娘に Drei Motetten Op. 110 Requiem	中田喜直 三善晃 J. Brahms L. Cherubini
1980 (19)	種谷 元隆 楠崎 博司 伊吹 新一	加藤ひろ子 京大ギタークラブ ヴィエール・フィッ ハーモニック	蔵田裕行	京都会館 第2ホール	白い木馬 クレーの絵本 第1集 「Ein Deutsches Requiem」より Singet dem Herrn ein neues Lie d BWV225	萩原英彦 三善晃 J. Brahms J. S. Bach
1981 (20)	四宮 貴志 松井 充 伊吹 新一	加藤ひろ子 大草裕子	池永規子 大西真澄 石原哲	京都会館 第2ホール	光る砂漠 おてわんみそのうた 「Requiem K. 626」より 「モテット集」より	萩原英彦 三善晃 W. A. Mozart A. Bruckner
1982 (21)	松井 充 石田 大介 伊吹 新一	河合拓治 加藤ひろ子 井上由美	植村久美子 石原哲	京都会館 第2ホール	五つの童画 島よ Komm, Jesu komm BWV229 「Requiem」	三善晃 大中恩 J. S. Bach G. Faure
1983 (22)	三鈴 司郎 永井 裕久 伊吹 新一	加藤ひろ子 栗本康夫 モーツァルト室内 管弦楽団	浅井順子、桐山明子 小林正夫、石原哲 濱崎加代子、菊池敏子	京都会館 第2ホール	幼年連祷 碑の墓 Fest und Gedenksprüche Op. 109 Harmonie Messe	新実徳英 団伊玖磨 J. Brahms F. J. Haydn
1984 (23)	古畑 篤 門野 賢三 伊吹 新一	藤原ひろ子 西川香子	濱崎加代子、菊池敏子 小林正夫、石原哲	京都会館 第2ホール	海の詩 Singet dem Herrn ein neues Lie Messe Choralis	広瀬量平 J. S. Bach Franz Liszt
1985 (24)	園田 恭弘 松井 紀直 伊吹 新一	藤原ひろ子 阪田誠康 京大ギタークラブ モーツァルト室内 管弦楽団	浅井順子、桐山明子 小林正夫、石原哲	八幡市 文化センター 大ホール	動物たちのコラール第1集 クレーの絵本第1集 Liebes Lieder Op. 52 Messe solemn K. 337	萩原英彦 三善晃 J. Brahms W. A. Mozart
1986 (25)	松井 紀直 高野真理子 伊吹 新一		濱崎加代子、浅井順子 弓場徹、石原哲	八幡市 文化センター 大ホール	混声合唱のための「うた」より 黒人霊歌集 Messe C-moll K. 427	武満徹 三善晃 W. A. Mozart
1987 (26)	藤田 毅 山本 兼司 伊吹 新一			八幡市 文化センター 大ホール	「深き淵」より 「日本抒情歌曲集」より Komm, Jesu komm BWV229 Theresien messe	萩原英彦 林光 J. S. Bach F. J. Haydn
1988 (27)	小坂 謙三 沢田 肇 伊吹 新一	藤林山里 杉谷真美 モーツァルト室内 管弦楽団	児玉祐子 石原哲	八幡市 文化センター 大ホール	ルネサンス世俗合唱曲集より テオの夜の旅 Requiem Op. 9 Quatre Motets sur des themes G regoriens Op. 10	木下牧子 M. Durufle M. Durufle
1989 (28)	松田昌二郎 十河 誠治 伊吹 新一	庄司浩一 藤田毅 木本雅子	浅井順子、桐山明子 小林正夫、石原哲	八幡市 文化センター 大ホール	クレーの絵本第1集 Motetten Messe As-dur D. 678	三善晃 A. Bruckner F. Schubert
1990 (29)	久米 健司 中村 恭之 伊吹 新一	大阪シンフォニカー		八幡市 文化センター 大ホール	混声合唱のための「うた」より Drei Motetten Op. 110 Messe E-moll	武満徹 J. Brahms A. Bruckner
1991 (30)	中村 恭之 森内 真理 伊吹 新一	土井直子、太宰まり ディベルティータ・ ラ・ムジカ	岸本泰子、桐山明子 小林正夫、石原哲	八幡市 文化センター 大ホール	地球へのバラード Nanie Op. 82 Messe C-dur Op. 86 Drei Motetten Op. 69	三善晃 J. Brahms L. v. Beethoven F. Mendelssohn
1992 (31)	伊藤 忠広 小司 敦彦 伊吹 新一	正田朝子 藤本由美	浅井順子	長岡京 記念文化会館	季節へのまなざし Stabat Mater	萩久保和明 F. Poulenc
1993 (32)	赤木 裕介 鈴木 綾 伊吹 新一	藤林山里 新神戸オリエンタル 劇場管弦楽団	浅井順子、桐山明子 清水光彦、石原哲	八幡市 文化センター 大ホール	クレーの絵本 第2集 Messe C-dur K. 317 Fest-und Gedenksprüche Op. 109	三善晃 W. A. Mozart J. Brahms
1994 (33)	池田 貴宣 末崎 衛 伊吹 新一	田中紀子 山上友佳子	浅井順子、桐山明子 小林正夫、石原哲	八幡市 文化センター 大ホール	細文 Singet dem Herrn ein neues Lie d BWV225 Te Deum	萩久保和明 J. S. Bach A. Bruckner
1995 (34)	田中 健路 芳本 潤 伊吹 新一	フォンテ 室内管弦楽団	浅井順子、桐山明子 小林正夫、石原哲	八幡市 文化センター 大ホール	「うた」より Zwei Motetten Op. 74 Messe c-moll K. 427	武満徹 J. Brahms W. A. Mozart

西暦	指揮者	伴奏	共演	会場	曲目	作曲者
1996 (35)	宮原俊折羅 渡邊 文太 伊吹 新一	田中有紀子	浅井順子、桐山明子 小林正夫、石原哲	八幡市 文化センター 大ホール	五つのアイロニー Messe en Sol Majeur Lauda Sion Op. 73	平野淳一 F. Poulenc F. Mendelssohn
1997 (36)	植村 哲士 鈴木 一誠 伊吹 新一	大阪シンフォニカ	浅井順子、桐山明子 小林正夫、石原哲	八幡市 文化センター 大ホール	Zwei Motetten Op. 29 地球へのバラード Paukenmesse	J. Brahms 三善晃 F. J. Haydn
1998 (37)	山本 舜悟 横山 智昭 伊吹 新一	藤林山里	浅井順子、桐山明子 小林正夫、石原哲	八幡市 文化センター 大ホール	Quatre Motets pour le temps de noel Messe D-dur Op. 86	F. Poulenc 吉岡弘行 A. Dvorak
1999 (38)	栗屋 智就 横山 智昭 伊吹 新一	藤林山里	浅井順子、桐山明子 小林正夫、石原哲	八幡市 文化センター 大ホール	詩篇 第114篇 じゅうにつき Missa in honorem Beatissimae V irginis Mariae	F. Mendelssohn 三善晃 J. Haydn
2000 (39)	倉本 圭造 前岡 俊哉 伊吹 新一	横山智明 垣内みどり	浅井順子、桐山明子 小林正夫、石原哲	八幡市 文化センター 大ホール	Fest-und Gedenksprüche 愛のプロローグ Vesperae solennes de Dominica K. 321	J. Brahms 高嶋みどり W. A. Mozart
2001 (40)	福嶋 亮太 柴田 智行 伊吹 新一	京都シンフォニカ	浅井順子、桐山明子 小林正夫、石原哲	長岡京 記念文化会館	「Geistliche Chormusik」より 小猫物語 Nelsonmesse	H. Schütz 松下耕 F. J. Haydn
2002 (41)	小山 尚人 中村 隆一郎 伊吹 新一	熊谷啓子 藤林山里	浅井順子 石原哲	長岡京 記念文化会館	Zwei Motetten Op. 29 邪宗門秘曲 Requiem	J. Brahms 木下牧子 G. Faure
2003 (42)	松下 倫子 上田 祥行 伊吹 新一	北川昇 藤井山美	浅井順子、桐山明子 小林正夫、石原哲	八幡市 文化センター 大ホール	Drei Motetten Op. 69 テオの夜の旅 Messe D-dur Op. 86	F. Mendelssohn 木下牧子 A. Dvorak
2004 (43)	前田 和政 桂 翔生 伊吹 新一	藤井山美	浅井順子、桐山明子 小林正夫、石原哲	長岡京 記念文化会館	「コダーイ作品集」より 「十びきのねずみ」 Requiem	Z. Kodaly 吉岡弘行 F. Schumann
2005 (44)	堀江 宏彰 船瀬 栄莉 伊吹 新一	平林知子 京都シンフォニカ	浅井順子、桐山明子 木野千品、石原哲	長岡京 記念文化会館	Sechs Lieder im Freien zu sing en n. 48 永訣の朝 Theresienmesse	F. Mendelssohn 鈴木憲夫 J. Haydn
2006 (45)	伊達 平和 加藤 大貴 石原 哲	平林知子 京都シンフォニカ	浅井順子、桐山明子 松本晃、雁木悟	八幡市 文化センター 大ホール	「Geistliche Chormusik」より 思い出のために Requiem K. 626	H. Schütz 信長貴富 W. A. Mozart
2007 (46)	加藤 大貴 高村 綾子 石原 哲	平林知子 山田真由美 大岡真紀子	浅井順子、桐山明子 清水徹太郎、雁木悟	八幡市 文化センター 大ホール	Komm, Jesu, komm BWV229 永久（トコシナ）ニ Messe C-dur Op. 86	J. S. Bach 鈴木憲夫 L. v. Beethoven
2008 (47)	田中 悠貴 高田 祐生 石原 哲	平林知子 萩原千織 京都シンフォニカ	浅井順子、桐山明子 五十嵐正嗣 清水徹太郎、雁木悟	長岡京 記念文化会館	Quatre Motets pour le temps de Noël 方舟 Messe de Minuit pour Noël, H. 9	F. Poulenc 木下牧子 M. A. Charpentier
2009 (48)	小鈴 健夫 前田 裕貴 上田 祥行	平林知子 京都シンフォニカ	浅井順子、桐山明子 木野千品、雁木悟	八幡市 文化センター 大ホール	Drei Motetten Op. 69 鎮魂の賦 Paukenmesse	F. Mendelssohn 上田真樹 F. J. Haydn
2010 (49)	新 拓人 原 史明 鈴木 成夫	平林知子 細見真理子		文化バルク城陽 プラムホール	「Geistliche Chormusik」より まぼろしの薔薇 もうひとつのかお	H. Schütz 西村朗 鈴木輝昭
2011 (50)	寺園 杏子 大前 泰樹 本山 秀毅 上田 祥行	第50回記念定期演奏会 特別編成オーケストラ 中山幾美子	浅井順子、桐山明子 藤田大輔、雁木悟	兵庫県立 芸術文化センター 大ホール	Drei Geistliche Gesänge Op. 69 おらしよ Jesu, meine Freude BWV227 Messe C-dur K. 317	J. G. Rheinberger 千原英喜 J. S. Bach W. A. Mozart

※西暦の括弧内の数字は定期演奏会の回数を、指揮者の欄掛は客演/常任指揮者を表す。

♪ 年表 ♪

- 1961年 合唱団発足
- 1962年 第1回定期演奏会を開催
- 1965年 合唱コンクールに初めて参加する(以降1984年までに7回参加)
- 1965年 第4回定期演奏会で伊吹先生を初めてお呼びする
- 1966年 京都府合唱祭に初めて参加する(以降毎年参加)
- 1982年 第21回定期演奏会をもって伊吹先生が常任指揮者に就任される
- 2005年 第44回定期演奏会をもって伊吹先生がご勇退される
- 2007年 初のサマーコンサートを開催
- 2011年 第50回記念定期演奏会開催

4年間、楽しいこともつらいこともたくさん
ありましたが、すべて我が人生の宝物です！
本当にありがとうございました！

井川未奈子

僕の大学生活一番の成功は、
ハイマートに入ったこと。
今の僕があるのはみんなの
おかげです。ありがとう。

天野良明

50期生は個性が強くていっぱいぶつかったりしたけど、
4年間一緒に過ごせて楽しかったです(*o*) 芦原悠紀子

四年間お世話になりました。
声を合わせて歌う楽しさを
初めて知りました。
ありがとうございました。

藤盛瑠子

Love you all!! Don't miss me too much :-)

宮本敦子

個性豊かな仲間たちに囲まれ、
楽しい4年間を過ごすことができました♪
ありがとうございました！

三木祐子

4年間ハイマートで楽しく
過ごさせてもらいました！
みんなありがとう！

中塚滋

ハイマートで歌ったことを誇りに思います。
4年間、ありがとうございました。

柳瀬芳雄

みんなと出会う、一緒に濃密な時間を
過ごせて、本当に幸せな4年間でした。
ありがとうございました。 原史明

大学生活＝ハイマートライフと言えるくらい濃密な4年間でした。
ここで過ごした時間、得たものは一生の宝物です。全ての人に、ありがとう！ 新拓人

ハイマートは私の知らなかった
音楽の楽しさをたくさん教えてくれました。
みんなとの楽しい日々はずっと宝物です！
ありがとう。 堀百花

ハイマートでなければ
ここまで楽しい大学生活を
過ごせなかったと思います。
みんな、4年間本当に
ありがとう！ 堀内俊希

Farewell

常に自分の中心にハイマートあり。費した
時間と心の割には得た物は少ないかもしれない、
けど悔いはありません。 武重政宏

4年間、こんなに楽しいメンバーと
一緒に歌うことができ最高でした。
みんなありがとう！ 須田武憲

ハイマートでなかなか楽しく
歌うことができました。
ありがとうございます。

野村義樹

一人ひとりが他の人にな
い長所を持っていて、集まると無敵。
そんな50期生とハイマートが大好きです。

今井奈央

自分が50期生で本当によかったと思います。
4年間ありがとうございました。

三木悠帆

四年間お世話になりました。
好き勝手させてもらって楽しかったです。

竹重聡史

4年前の春を思い出します。
あの春のような、暖かくうらかな
日ばかりではなかったけれど、
とっても良い時間でした。感謝。

菅原菜月

この4年は掛け替えのないものでした。
決して忘れられない思い出です。
今までありがとうございました。

井上広俊

あっという間の4年間でした。
仲間と歌う機会は多くは
ありませんでしたが、これからも
歌を続けていきたいと思っています。

柳澤名由太



Members and Staffs



名誉指揮者・指揮法指導 伊吹新一 ヴォイストレーナー Soprano 浅井順子 Alto 桐山明子 Tenor 小林正夫 Bass 雁木 悟

マネージャー 永本 翠 指揮者 大前泰樹・寺園杏子 技術委員長 新 拓人・原 史明
 選曲委員長 高川史香 副指揮者 石山悠和・岡本克文・清水章光・中根洋太朗
 パートリーダー 下保 舞・石山悠和・中根洋太朗・清水章光
 パートサブリーダー 園部香里・豊島絹世・藤井 元・岡本克文

Soprano	Alto	Tenor	Bass
赤土 碧 (理 7 時習館)	松村敦子 (美 6 高知学芸)	上村昂史 (人環M2 洛 南)	堀江宏彰 (工 D3 藤 枝 東)
鈴木茉莉緒 (人環D1 星 陵)	山川倫誉 (農 M2 帝 塚 山)	木下寛也 (工 M2 膳 所)	加藤大貴 (生命D1 明 和)
桂 奈菜子 (農 M2 膳 所)	薄井寛子 (総 5 水戸第一)	田中悠貴 (工 6 西大和学園)	渡辺敬介 (理 M2 磐 田 南)
久保知子 (美 6 頤栄女子学院)	河林佐知 (医人M1 堀 川)	野田 翔 (工ネM2 明石高専)	増井秀樹 (人環M1 金沢二水)
田中悠子 (文 M2 堀 川)	島並祐子 (農 M1 四天王寺)	岩村宗千代 (工ネM1 白 陵)	井上広俊 (経 4 刈 谷)
栗岡紀佳 (人環M1 茨 木)	井川未奈子 (農 4 加古川東)	小鈴健夫 (農 5 高 槻)	桧葉洋平 (工 4 岸 和 田)
高畠聡美 (教 選訓生 岩 国)	小林桜子 (美 4 南 山)	長岡徹郎 (文 M1 長 田)	須田武憲 (理 4 千 種)
谷口麻里枝 (美 5 堀 川)	菅原菜月 (教 4 神 戸)	前田裕貴 (理 5 千 種)	中塚 滋 (工 4 大 手 前)
松岡祐子 (総 5 八王子東)	藤本明夏 (医人4 姫 路 東)	吉松 寛 (人環M1 東京学芸大附属)	野村義樹 (工 4 徳 山)
芦原悠紀子 (農 4 同 志 社)	藤盛瑠子 (農 4 宮城第一)	天野良明 (経 4 大 塚)	原 史明 (農 4 八王子東)
今井奈央 (文 4 荳 岡)	堀 百花 (医人4 伊 那 北)	新 拓人 (理 4 高 崎)	三木悠帆 (文 4 長 田)
大伴晴香 (理 4 京都女子)	宮本敦子 (経 4 I 5 D)	竹重聡史 (理 4 高 槻)	元林 敬 (工 4 北 野)
三木祐子 (農 4 前橋女子)	永本 翠 (理 3 天 王 寺)	武重政宏 (農 4 明 和)	柳澤名由太 (理 4 堀 川)
齊藤真由子 (文 3 小 倉)	三谷 悠 (工 3 高知学芸)	堀内俊希 (工 4 洛 星)	柳瀬芳雄 (文 4 明 善)
高川史香 (農 3 神 戸)	石山悠和 (理 2 新 発 田)	栗林高樹 (工 3 佐久長聖)	大前泰樹 (理 3 長 田)
寺園杏子 (文 3 鶴 丸)	小西沙智代 (文 2 膳 所)	田中秀明 (経 3 洛 南)	岸本裕大 (工 3 北 野)
中野由貴 (文 3 岡山朝日)	豊島絹世 (文 2 四天王寺)	藤井大輔 (工 3 春日丘)	井上裕登 (工 2 洛 星)
前田史世 (工 3 高崎女子)	野寄安希 (法 2 福 岡)	吉田守伸 (文 3 川 和)	岡本克文 (工 2 奈良)
大津谷 馨 (文 2 長 田)	金子真由 (農 1 小倉女子学院)	中根洋太朗 (工 2 奈良学園)	砂山祐一郎 (文 2 大教大附属田)
尾笹由佳 (法 2 四天王寺)	戸田叶子 (編 1 浜 松 北)	服部舜也 (文 2 茨 木)	今泉 唱 (文 1 長崎北陽台)
下保 舞 (法 2 神戸女学院)	野村佳世 (美 1 堀 川)	藤井 元 (経 2 北 野)	栢菅朋哉 (総 1 大分上野丘)
嶋 ゆりか (総 2 浜 松 北)	藤本菜菜子 (文 1 神 戸)	大懸剛貴 (理 1 旭 川 東)	倉 真之介 (医人1 金沢二水)
園部香里 (文 2 水 城)		大野真人 (工 1 大阪星光学院)	佐藤由比呂 (理 1 長 田)
藤元美江 (法 2 金沢大附属)		北村康平 (法 1 広島学院)	野田洋平 (工 1 奈良学園)
松下奈生子 (農 2 神戸女学院)		佐藤 開 (農 1 札幌南)	花尾 崇 (経 1 高 岡)
矢野礼菜 (法 2 今 治 西)		堀内 俊 (工 1 兵 庫)	山本貴裕 (経 1 東大寺学園)
義則裕子 (文 2 大 手 前)		松浦圭佑 (理 1 洛 南)	吉井翔一 (理 1 鶴 丸)
藤澤智子 (工 1 高 松)			

第50回記念定期演奏会実行委員会

委員長 吉田守伸 OBOG係 森 奈保子
 連絡役統括 園部香里 編集 小西沙智代・矢野礼菜
 運営・備品統括 服部舜也 ステージマネージャー 嶋 ゆりか・松下奈生子
 会計 野寄安希 校内宣伝 尾笹由佳
 渉外 井上裕登・砂山祐一郎・義則裕子 企画ページ 藤元美江

演奏会情報

パナソニック合唱団・神戸大学混声合唱団アポロン・京都大学音楽研究会ハイマート合唱団ジョイントコンサート
 2012年7月1日(日) 兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホール

OBOG

※名前横の数字は期生を表す

Soprano	Alto	Tenor	Bass
岡田知子 6	林 紘子 4	沖吉和祐 4	田中恒夫 2
内田匡子 9	南部啓子 9	林 哲介 4	長安敏夫 3
中川知子 9	古川道子 9	井澤宏充 5	北脇重宗 4
荒川 愛 11	河井晶子 10	田中俊秀 7	大平公雄 5
上田京子 11	土屋年子 10	長澤光英 7	河合利彦 6
上田倫子 11	喜多恵子 15	松浦治徳 7	高島武和 7
市村俊子 12	寺島朋子 17	佐々田哲哉 8	根木和彦 7
徳田仁子 15	金子啓子 19	田代浩一朗 8	諏訪 浩 8
福本淳子 19	吉本朋子 20	古川 健 8	中塚 正 8
増田眞里 19	中根サチ 23	高田泰治 11	内田正明 9
森川久子 19	吉田ゆかり 23	岡田重信 13	荒川正夫 11
高井小織 21	河合真理子 26	森川一郎 18	小森 周 12
吉中充代 21	吉川和美 32	宇高 靖 23	古市 眞 12
山野尚子 22	鈴木 綾 33	町田正裕 23	喜多秀行 15
野村佳子 23	福田千晴 33	小田将博 27	森 久幸 17
道正美代子 24	浦 佳奈 34	藤田 毅 27	藤井謙悟 20
永井理恵 24	久保登士子 34	出口 豊 28	石原 篤 22
春山貴子 24	長田知恵 34	中村太郎 28	三船司郎 23
堀江直子 24	片岡美幸 36	福島紀彦 28	吉田和宏 23
塩崎和子 25	今野千東 36	大森友也 30	谷口良知 25
大野晶子 28	井上さくら 37	久米健司 30	松田晶二郎 29
出口智恵子 28	加藤智子 37	北浦 啓 31	岡 潤 30
中町美香子 29	織田乙代 39	山本哲久 32	大井秀人 32
岡 千織 30	辻本久美子 42	山崎大輔 33	鈴木毅裕 33
佐藤敦子 30	貴伝名 梓 44	浦 哲治 34	加藤 隆 34
片山明美 31	上田康代 45	宮川博尚 34	田中健路 35
北浦範子 31	園田弥生 45	佐竹雄一 35	浜崎 空 35
森内真理 31	辻野陽子 45	横山智昭 38	芳本 潤 35
吉田裕美 31	南出陽子 45	木野千晶 39	青野隆宏 36
深海牧子 32	柳川 彩 45	山本 剛 39	稲生啓行 36
村上由美子 32	児島未沙 46	小林真之 40	奥井 亮 36
田村香菜子 33	川端あき 47	井上博之 41	松島純以 36
宮原道子 33	高村綾子 47	木村展久 42	前田謙一郎 38
芳本あや 34	藪崎友誉 47	谷村幸宏 42	宮原佳昭 38
稲生真起 36	山口ひろみ 47	沼波 信 42	谷口竜一郎 39
百々玲子 36	川上寛子 48	上柿智生 43	辻野孝輔 40
横山琴音 37	亀田智絵 49	貴伝名亮甫 44	伊藤哲造 41
皆川栄子 39	虎谷美由紀 49	柳川正隆 44	柳田忠彦 41
出射嘉子 40		寺田晴彦 45	初田英明 43
翠 理恵 41		中島祐輔 45	林 大祐 43
田仲理恵 44		馬籠隼一 45	桂 翔生 44
吉村智佳 45		喜田力文 46	藤岡 峻 44
河本 愛 46		廣瀬喜規 46	上田佳史 46
古沢陽子 46		石井裕志 47	岡野真裕 46
増田裕子 46		吉田昌泰 47	白川佳徳 46
岡 有香里 47			高橋天平 46
尾上わか奈 47			馬場崎剛史 46
松田洋子 47			八木原祐亮 46
荒木美保 48			滋野井孝泰 47
岡村 香 48			杉村 信 47
			前坂怜史 47
			高田祐生 48



PARADISE HACHI KÖGEN

—素晴らしき世界—
但馬の楽園にあなたは満足するはず!



鉢伏高原ホテルかねいちゃ
〒667-1100 兵庫県養父市大久保1583-2
TEL 079-667-8211(代)
FAX 079-667-8215
URL <http://kaneichiya.jp>

We construct UNIQUE company with the spirit of ONLY1.

クラブ、サークルの春・夏合宿
リーダーズ・フレッシュマンキャンプ、ゼミ旅行・卒業旅行
大会遠征の交通(貸切バス・JR・フェリー・航空券)及び
宿泊 等の手配
国内・海外各社パッケージツアー etc.
「旅」のことなら、おまかせください

京都府知事登録旅行業第2-6号
NET 日本教育旅行株式会社
〒600-8155
京都市下京区下珠数屋町通東洞院東入
075-351-0405
<http://www.net-freeway.com>

お客様に素晴らしい感動を与え、個性的でユニークな「旅」を提供いたします。…それが、「日本教育旅行」です。

輝くとき、そのままに...

演奏会・ライブステージ撮影/DVD制作

合同会社Souvenir スーヴニール



657-0013 神戸市灘区六甲台町10-6-104
TEL & FAX 078-871-0474
info@souvenir.co.jp <http://www.souvenir.co.jp/>

就活応援フェア
礼 服 祭
同 時 開 催 中 !!



青山商事株式会社
京都白川通店
〒605-8165
京都府京都市左京区一乗寺野田町1番地の1
☎ (075)702-6004
<http://www.aoyama-syouji.co.jp>

AMERICAN DINER
ASH FORK
アッシュ フォーク

京都市左京区田中門前町60 1F TEL075-723-7370

ボリューム&アメリカンテイスト満点のメニューを、
ガッツリどうぞ!

京都市左京区の百万遍、京都大学のすぐ近く、大きな写楽の看板が目印。

百万遍
ひゃ あく
寫楽



当日予約OK!!

予約専用フリーダイヤル
0120-08-1335
<http://r.gnavi.co.jp/k614100/>
京都市左京区百万遍上の一乗寺 1F TEL075-781-1335
営業時間 PM5:00~AM0:30 本定休

第50回記念定期演奏会 ご盛会おめでとうございます

今からちょうど20年前、ハイマート合唱団のOB・OG有志により、混声合唱団カデンツァは創立されました。そして来年、私たちも第20回記念演奏会を迎えることとなります。

思えば今年はOB・OG合同ステージで、現役の皆様と、たくさんのOB・OGの皆様と、出会い、ともに一つの音楽を作っていくという貴重な体験をさせていただきました。全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ハイマートは私たちの大いなる心のふるさとです。そのふるさとを飛び立ち、新たなメンバーも加わり、カデンツァとして歩んできた20年の歴史を振り返り、さらに未来へ進んでいくための、1年が始まります。2012年秋、私たちの記念演奏会もどうぞご期待ください。

これからのハイマートの益々のご発展を祈念して—



CADENZA

concert@chor.cadenza.net
<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/tomo0726/cadenza/>



ピアノ楽譜の専門店
CRESCENDO
クレシェンド
<http://www.panamusic.com>
TEL 075-959-0070

楽譜は楽譜の専門店で

合唱楽譜の専門店
PANAMUSICA
パナムジカ
<http://www.panamusic.co.jp>
TEL 075-952-8762

きらめく瞬間を
未来に伝えたい。



OSAKA PHOTO SERVICE

株式会社大阪フォトサービス

〒550-0023 大阪市西区千代崎2丁目20-9
TEL. 06-6581-7005 FAX. 06-6581-7033

<http://www.osakaphoto.co.jp/> E-mail: sales@osakaphoto.co.jp

編集後記

前期演奏会が終わるや否や、休む間もなく計画を立て始めてから、本当に様々なことがありましたが、無事ここまで辿り着くことができました。ご支援頂いたデザイナーの毛利さん、西湖堂の吉村社長をはじめ、委員長や編集の先輩方、校正にご協力下さった団員の皆様に心よりお礼申し上げます。たくさんの思いが詰まったこのパンフレットを、お楽しみ頂けましたら幸いです。

小西沙智代

50回目の演奏会にふさわしいパンフレットを作ろう、との思いで様々な方々と連携しながら作って参りました。新たな試みも数多く行いました。そうして完成したパンフレットを手にした皆様の前で演奏できることを、本当に嬉しく思っております。それもひとえに、多くのご支援のおかげであり、我々の要望に快く、かつ迅速に応えてくださった毛利さんには、特に感謝を申し上げたいと思います。

矢野礼菜

発行日 2011年12月18日

発行者 京都大学音楽研究会ハイマート合唱団

編集 小西沙智代 矢野礼菜

印刷所 西湖堂印刷株式会社

JASRAC許可 1111672-101